

令和 8 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	90	学校名	県立守谷高等学校						課程	全日制		学校長名		小島 幸夫			
教頭名	宇都木 宏一										事務（室）長名		塩田 佳子				
教職員数	教諭	38	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	1	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	3	技術職員等	4	計	54
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通 科		121	103	128	98	106	106			355	307	18				
	科																
	科																

2 目指す学校像

- (1) 知(確かな学力)、徳(豊かな心)、体(健やかな体)のバランスのとれた「生きる力」を育み、心身ともに健康で、地域や社会に貢献しようとする人間を育成できる学校
- (2) キャリア教育の充実を図り、生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた進路指導ができる学校
- (3) 保護者や地域社会との連携を深め、生徒・保護者・地域社会に広く信頼される魅力ある学校

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	自らを律するとともに、生涯にわたって学ぶ意欲を持ち、多様な他者と協働して、地域や社会に貢献しようとする人材
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の興味・関心や特性に応じた、きめ細かなキャリア教育や多彩な特別活動を通して、就職から大学進学までの進路希望実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	将来を見据えて、主体的に行動し、自身の可能性を切り拓こうと学習や特別活動に積極的に取り組む生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	生徒一人一人の特性に応じた授業が展開されているが、ICT 機器を取り入れた授業については、教員のスキルに差があり、研修等を通して実践力を高める必要がある。	主体的・対話的で深い学びの実現のため、ICT を活用した授業の研修の機会を増やし、授業改善に努める。
進路指導	就職・進学ともほぼ 100%の達成率である。大学進学を希望する生徒の割合が少しずつ増えてきており、推薦型だけでなく、総合型で受験する生徒も増えている。	探究活動の取り組みを希望進路に反映させられるよう、適切な進路情報の提供や個別の指導をとおして、自己の興味・適性を踏まえた主体的進路選択を支援する。
生徒指導	基本的な生活習慣が身につけていない生徒が見られる。遅刻者数も増えているのが現状である。また、交通マナーに関する苦情も多く、マナーアップが必要である。	生活習慣の乱れから問題行動等に繋がる傾向がある。基本的な生活習慣を確立させ、問題行動や交通事故等の未然防止教育を充実させる必要がある。
特別活動	生徒会活動・部活動に積極的に参加し、よい成果を残している生徒が増えている。文化祭の毎年開催や、生徒会役員が主体となって学校制服のベスト導入を実現させるなど生徒が主体となる活動が増えている。	守谷高校オリジナル手帳（もりすけ）を活用し、進路学習支援部と連携して、生徒の自己管理能力や主体性の育成を目指していく。生徒の参加意識を高め、リーダーの育成、HR 活動の活性化、部活動加入率の向上を図る。
開かれた学校づくり	HP の他に、Instagram や後援会会報などを活用し、学校からの情報発信をすすめ、保護者や地域との連携を図っている。	HP の更新回数は飛躍的に増え、積極的な情報発信ができています。地域との連携のあり方をさらに模索し、信頼関係を深めていく必要がある。
働き方改革	令和 7 年度の時間外在校時間の平均は 17 時間 02 分、月平均 45 時間超過者割合は 5.5%、月平均 80 時間超過者割合は 0.0%となり、いずれも前年度より大幅に減少し、県平均を大幅に下回った。	時間外在校時間は減少してきてはいるものの、部活動や学校行事の活性化等による、教員の業務量は減ってはいない。業務分担の平準化や業務の効率化をさらに進め、適切な業務改善を計っていく。

5 中期的目標

- 1 ICT 活用指導力の向上と生徒の実態に応じた授業改善で、生徒一人一人の深い学びの具現化を目指す。
- 2 3 年間を見通した進路指導の計画を点検・改善し、組織的・断続的な指導を行うことにより、生徒のよりよい進路希望実現を目指す。
- 3 学校生活全般を通し、日常的な面接指導に取り組むことで、生徒と教師の信頼関係を構築し、生徒の基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚、公共の場におけるマナーの向上を目指す。
- 4 生徒主体による活動（HR 活動、生徒会活動、部活動）の活性化により、活力と潤いのある学校づくりを目指す。
- 5 本校の魅力を積極的に広報するとともに、保護者や地域との連携を深め、地元で信頼される学校づくりを目指す。
- 6 教師が担うべき業務を整理するとともに、効率化を図ることによって、仕事と生活の調和のとれた職場づくりを目指す。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
授業改善を主とした学力の向上	①主体的・対話的で深い学びの実現に向け、研修等を通じて ICT 活用指導力を高めるとともに、研究・実践を通して授業改革に努め、学校評価に係る生徒による授業評価の「授業満足度(KPI)」の平均値 3.4 以上を目指す。 ②すべての教員が年 1 回以上授業を公開する授業研究会を通して、教師一人一人の授業力向上を図る。 ③観点別評価についてさらに研究を重ね、目標と指導と評価の一体化を図り、授業の工夫改善を行う。
探究活動等の充実による課題解決能力の育成	④各教科の授業や総合的な探究の時間をはじめ、学校の教育活動全体をとおして、自ら課題を見つけ、主体的に学んだり、考えたりすることで、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。 ⑤学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育て、自己のあり方生き方について考える力を醸成する。
生徒の希望や資質・適性に応じた進路実現	⑥進路ガイダンスやインターンシップを計画的・組織的・系統的に実施し、生徒の進路に対する意識の高揚を図る。 ⑦面談を通して生徒の希望及び資質・適性を的確に把握し、それらを踏まえた適切な進路指導により生徒の進路希望を支援する。
基本的な生活習慣の確立	⑧きめ細かな生活指導を通して、規範意識の高揚と公共の場におけるマナーの向上を図る。 ⑨規則正しい生活の習慣化を図り、学校全体での遅刻回数を昨年度より 5 %削減する。 ⑩薬物乱用防止や SNS 上でのトラブル、交通法規遵守に対する意識を高め、健康で安全な生活を送ろうとする意欲を高める。

別紙様式 1 (高)

特別活動・部活動の活性化	⑪ホームルーム活動、学校行事や生徒会活動、部活動において、生徒を主役とした活動を充実させる。生徒会アンケートを通して、生徒の意見を反映させた活気のある学校をつくる。 ⑫キャリアパスポート及び守谷高校オリジナルの手帳（もりすけ）の活用をととして、生徒自身が自らの学びの見通しをたて、事後に振り返ることで、主体的に学びに向かう力を育む。 ⑬「茨城県部活動の運営方針」に定められた活動時間等を遵守し、部活動についての運営体制の見直しと意識改革を図る。
校外への広報と連携の充実	⑭HPの発信量を増やすとともに、Instagramや後援会会報などさまざまなメディアを活用し、情報発信を活発化し、本校の魅力の広報活動を強化する。 ⑮保護者との連携をさらに深めるとともに、地域の活動に積極的に参加したり、近隣小中学校との交流を進めたりすることによって、地域社会との連携の充実を図る。
働き方改革	⑯質の高い授業や個に応じた学習指導を実現するために、学校や地域の実情を踏まえ、教師が担うべき業務を整理し、適正化を図る。 ⑰ICTを活用し、仕事の削減・効率化に努める。
コンプライアンス体制の充実	⑱コンプライアンス体制の充実による、信頼される学校運営の確立。

○授業改善 → ICT活用指導力の向上、生徒の実態に応じた授業改善 KPI 授業満足度 3.4 以上も継続

○進路実現 → ガイダンスの他にインターンシップを追加

○生徒指導関係 → 遅刻者数のさらなる減少 昨年度比 5 %減

○特活関係 → 生徒が主役となる活動 もりすけの活用による自己管理能力、主体性の育成

○広報 → 地域社会との連携

○コンプライアンス → 追加